

講和談判筆記第五回本會議

明治三十八年八月十六日午前九時四十五分開會

列席者前回ニ同シ

小村男 之ヨリ第七條ヲ議セン

「ウヰッテ」氏 承知セリ

小村男 此ノ條ニ關シテ一ノ覺書ヲ作り置タリ今之ヲ貴全權委員等ニ提出シ考究アラ  
シコトヲ希望ス(トテ右ノ覺書ヲ提出ス)

七、日本國全權委員ハ本條カ主義ニ於テ露西亞帝國政府ノ承諾スル所トナリタルコ  
トヲ領ス哈爾賓旅順口間ノ鐵道敷設經營ノ權利ハ遼東半島租借ノ重要部分ヲ成ス  
モノナリ從テ該鐵道カ其ノ全部分及全延長ニ亘リ其ノ敷設及現時經營ノ由テ來レ  
ル根本タル右租借ト運命ヲ共ニセサルヘカラサルハ論理上ノ結果ナリ加之兩鐵道  
線路ノ自然ノ區分點ハ此ノ兩線ノ交叉點ニ在リ又清國カ直ニ該線買收ノ權利ヲ行  
フコトニ就テハ日本國全權委員ハ日本帝國政府カ本問題ニ於ケル鐵道線路ヲ保有  
經營スルコトハ清國ノ買收權ニ關スル特許條約ノ規定及其ノ他ノ條件ニ準據シ露  
西亞帝國政府カ滿洲橫貫鐵道線路ヲ保有經營スルト同様ノ方法ヲ以テ之ヲ行フヘ  
キコトヲ聲明セムコトヲ欲ス(原文ハ附屬書第一號及第二號)

「ウヰッテ」氏 (右覺書一閱ノ後)本員ハ此ノ覺書ニ認メラレタル趣意ニ同意スルコト能ハ

0233

ス即チ東清鐵道ノ南滿洲支線カ遼東半島租借ノ一部分ナリトノコトヲ承認スルコト能ハス又此ノ支線ヲ日本ニ讓與スルコトハ遼東半島ニ於ケル租借地ヲ日本ニ讓與スルコトヨリ生スル論理上ノ結果ナリト云フコトモ之ニ同意スルヲ得ス元來半島ノ租借ト支線ノ敷設權讓與トハ二箇各異ナリタル事項ニシテ相互ノ間ニ何等關係アルナク隨テ一ハ以テ他ニ何等ノ影響ヲ有セス又哈爾濱ハ兩國鐵道ノ自然ノ連絡點ナリトノ說ニモ不同意ニシテ此ノ地ヲ以テ必ス鐵道讓與ノ區分點トナスヘシトノ事ハ之ヲ承諾スルコト能ハス該支線ハ其ノ哈爾濱ヨリ南方海ニ達スル迄ノ間ニ於テ之ヲ區劃スルコトヲ得ヘシ即チ露國ハ現在日本軍ノ占領ニ歸セル部分ノ鐵道ハ之ヲ日本ニ讓與スルコトヲ得ルモ其ノ以上ハ不可ナリ而シテ該支線南部ノ讓與ニ關シテハ我方ハ曩ニ我方ヨリ提出シタル回答書ニ記載シタル方法ニ依リテノミ之ヲ爲スコトヲ承諾スヘシ此ノ鐵道線路ハ一ノ私立會社ニ屬スルモノニシテ之ヲ買收スルノ權利アルモノハ獨リ清國政府アルノミ故ニ我方ハ會社ト協議ヲ遂ケ清國政府ニ其ノ將來ニ於テ有スル買收權ヲ目下直ニ實行スルコトヲ得セシメ而シテ清國政府カ支拂フヘキ代價ハ之ヲ日本ニ交付セントス

小村男 斯ノ如クシハ所有者タル會社ハ何物ヲ得ルカ

「ウ井ッテ氏 何物ヲモ得ス然レトモ此事ハ露國政府ニ於テ會社ト協議シ處理スヘシ蓋シ日本ニ於テハ其ノ如何ナルカヲ知ラサルモ我露國ニ於テハ政府ハ制度上鐵道會社ニ對シテ監理ヲ行フコトヲ得故ニ本問題ノ讓與ヲ行フニハ次ノ如キ方法ニ依ラント

一、鐵道會社ニ對シ其ノ鐵道ノ一部ヲ清國政府ヘ引渡スコトヲ命令スルコト  
 二、清國政府カ鐵道買收ヲ行フコトハ敷設權讓與ノ約定書中ニ規定シアリ今右買收權ヲ直ニ實行スルコトヲ清國政府ニ許スコト

三、露國政府ハ此ノ賣渡代金ヲ日本ニ交付シ會社ニハ交付セサルコト

四、線路ハ日本軍隊ノ占領セル區域ヲ限り之ヲ引渡スコト、此ノ區域ハ判然之ヲ定メサルヘカラス而シテ其ノ分割ノ點ハ或重要ナル場所タルヲ要ス

五、既ニ約束シタル一切ノ規定即チ先ニ露國ニ殘屬スル鐵道ニ關シテ爲シタル約束ヲ相互的ニ爲スコトハ此ノ條ニ關スル會議錄中ニ掲ケ置クコト

小村男 貴說ノ如ク清國ヲシテ直ニ鐵道買收ノ權ヲ得セシムルコト、セハ日本ハ代金ヲ得ルノミニシテ鐵道ハ之ヲ得サルコト、ナラン

「ウヰッテ」氏 然リ、其ノ通りナリ即チ此ノ方法ヲ採用スルノ結果第一ニ日本ハ賣渡代金ヲ得第二ニ露國ハ該鐵道ヲ全ク拋棄シテ何等之ト關係ヲ有セサルコト、ナル思フニ此ノ第二カ貴方ノ主眼點ナラン何トナレハ是ヨリ以後該地方ニ於ケル露國ノ勢力ハ皆無トナルヘケレハナリ

小村男 此ノ如クセハ該鐵道ハ日本ニ於テ所有セス清國ニ於テ所有スルコト、ナルヘシ

「ウヰッテ」氏 然リ、即チ此ノ如クニシテ露國ハ其ノ勢力ヲ失フコト、ナルヘシ要スルニ

鐵道處分ハ露國ハ清國トノ條約ヲ有スルカ故ニ該條約ニ據テ之ヲ實行スルノ外ナキナリ斯克テ之ヲ實行シタル後清國ハ自由ニ該鐵道ヲ處分スルコトヲ得ヘク而シテ露國ハ之ニ對シ何等ノ勢力ヲモ有セサルコトナルヘシ

小村男 果シテ斯ノ如クンハソハ日本ニ對スル讓渡ニアラス

「ウ井ッテ」氏 然リ該鐵道ハ私有財産ナルヲ以テ露國政府ニ於テ自由ニ處分スルヲ得ス

前ニ述ヘタル方法ノ如ク元來ノ約束ヲ踐ミテ引渡ヲ行フノ外之ニ就テハ日露兩國共ニ如何ナル處分ヲモ爲スコトヲ得ス

小村男 果シテ然ラハ本問題ニ關シ双方全權委員ノ間ニ根本的意見ノ相違アリ故ニ茲ニ詳ニ日本ノ地位ヲ説明センニ

第一、本員等カ今露國ニ讓與ヲ要求スル鐵道ノ範圍ハ貴全權委員等ノ知ラル、カ如ク哈爾賓ヨリ旅順口迄ナリ此ノ支線敷設ノコトヲ最初ニ許可シタルハ旅順口大連租借條約第八條ノ規定ナリ

第二、此ノ支線ハ租借ノ主要且分離スヘカラサル部分ヲ爲ス日本カ此ノ支線全部ノ讓渡ヲ要求スルハ此ノ理由ニ基ケルナリ

第三、今ヤ露國政府ハ租借權ヲ日本ニ讓渡スルコトヲ承諾シタルヲ以テ該支線ハ租借權ト共ニ日本ニ引渡サレサルヘカラス

第四、本員等ハ租借條約問題トハ全ク別トスルモ尙哈爾賓ヲ以テ區分點ト爲スノ當然ナルコトヲ主張スルモノナリ何トナレハ滿洲鐵道ノ幹線ハ西比利亞線ト浦

0236

鹽斯德間ノ直接交通機關ナルモ支線ハ哈爾賓ト遼東租借地トヲ連絡スル爲メニ敷設セラレタルモノナリ故ニ露國政府ニシテ該租借地ヲ拋棄シタル以上此ノ支線ハ露國政府ノ關スル限り其ノ存在ノ理由ヲ失ヒタルモノナリ

「ウヰットテ」氏 本員ハ貴説ニ同意スルコト能ハス何トナレハ租借ト鐵道トハ清國トノ條約ニ於テ二箇ノ異ナリタルモノナレハナリ其ノ區別ハ租借ニ關スル書類ニ依リ之ヲ認ムルコトヲ得

小村男 否鐵道ノ許可ハ租借條約中ノ第八條ヲ以テ行ハレタルナリ

「ウヰットテ」氏 事實ニ於テハ此ノ支線ヲ敷設シ海口ニ達セシムルコトハ遼東半島租借ヨリモ遙カ以前ニ企テラレタルナリ鐵道ト租借ト二者ハ全ク異ナリタル獨立ノモノニシテ互ニ他ノ一部ヲ成セルニアラス偶此ノ兩者カ一條約中ニ規定セラレアルヲ以テ之ヲ一物ナリト云フ能ハス抑モ我鐵道敷設ノ目的ハ依テ以テ海岸ニ達セムト欲スルニ在ルヲ以テ露國ハ毫モ土地若クハ地點ヲ有スルコトナクシテ海岸迄鐵道敷設ノ權利ヲ清國ヨリ獲得スルヲ得ルハ明ナリ之ト同シク恰モ獨逸ノ膠州灣ニ於ケルカ如ク鐵道ヲ所有スルコトナクシテ土地若クハ地點ヲ有スルコトヲ得故ニ此ノ兩者カ同一ノ條約ニ規定セラレタリトノ事實ヨリ相互ノ間ニ何等連絡アリト云フコトヲ得ス

小村男 爾カ云ハルルモ歴史的記錄ハ此ノ兩者カ同一ノ交渉ニ由リテ同時ニ許可セラレタルモノナルコトヲ示ス

「ウヰットテ」氏 此ノ兩者カ同一ノ記錄ニ存セリトノ事實ハ本員モ亦之ヲ認ムルモ此ノ形

式ハ兩者カ一ニシテ離ルヘカラサルモノナルコトヲ意味ストハ本員ノ認ムルコト能ハサル所ナリ

小村男 兩者カ其ノ性質上相分離シテ存立スルコトヲ得ルハ勿論ノ事ナリ然レトモ本鐵道ノ起原ハ旅順大連ノ租借ニ在ルヲ以テ沿革上離ルヘカラサル關係ヲ有ス

「ウヰッテ」氏 否露國カ滿洲鐵道ノ南行支線ヲ敷設シテ海岸ニ達セシメントスルコト、旅順大連ノ租借ヲ得ントスルコトハ全ク別箇ニ起リタル企圖ニシテ最初ニ鐵道敷設ノコト計畫セラレ租借ノコトハ遙カ後ニ至リテ企テラレタルナリ

小村男 露國政府ノ意思如何ハ本員等ノ茲ニ論スル所ニアラス沿革的記錄ハ此ノ兩者カ全ク密接離ルヘカラサル關係ヲ有スルコトヲ明示セリ

「ウヰッテ」氏 兩者ハ全ク異リタルモノニシテ貴全權委員ハ兩者ノ許可カ同一ノ條約文ニ認メアルノ故ヲ以テ之ヲ一物ト見做サル、ナラン本員ハ同一條約中ニ規定セルコトヲ以テ兩者相結合スルモノタルコトヲ意味スルモノニアラスト云フモノナルモ尙歴史的ニ於テモ將タ性質的ニ於テモ爾カ云ハサルヲ得ス試ニ例ヲ取リテ之ヲ示サンニ茲ニ一人アリ家ヲ購ヒ同時ニ又船ヲ購ヒタリトセン此ノ場合ニ於テ家ト船トハ互ニ他ノ結果ナリト云フヲ得ス

小村男 性質上二者カ獨立シテ存立シ得ルモノナルコトハ本員モ亦之ヲ認ム然レトモ本員ノ茲ニ論セムトスルハ旅順租借條約ハ千八百九十八年三月ニ締結セラレ之ニヨリ同年六月清國政府ト露清銀行トノ間ニ東清鐵道敷設條約成リ此ノ鐵道敷設ノコト

0238

ハ旅順租借ノ事ニ基キテ定メラレタルナリ

「ウ井ッテ」氏 貴説ハ却テ本員ノ意見ヲ確ムルモノ、如シ第一租借談判ノ時租借ト鐵道敷設トヲ併セテ談判セス先ツ租借ノ事ヲ談シ次ニ敷設ノ事ヲ談セリ此ノ鐵道敷設ノ事ハ初メハ主義ノミ取極メ二ヶ月後ノ談判ニヨリテ決定シタルモノナリ此ノ手續ハ又滿洲鐵道ノ幹線ニ於テモ行ハレ最初ニハ主義ノミ決定セラレ後ニ至リテ實際ニ適スル特別ノ約束結ハレタルナリ

小村男 實情貴方ノ説明ノ如クナラハ本員ハ尙更同意スルコト能ハス本員等ノ主張スル所ハ鐵道敷設ハ租借ノ結果ナリト云フニ在リ今貴全權委員ノ述ヘラレタル特別ノ約束ナルモノハ租借條約ニ基キテ結ハレタルモノナルカ故ニ租借權ニシテ讓渡サレタル以上ハ鐵道ハ勿論其ノ結果トシテ讓渡サレサル可ラス而シテ又鐵道カ租借ノ結果ナリヤ否ヤノ問題トハ別ニシテ本員等ハ本線路全部ヲ要求スルニ對シ尙一層高尙ナル政治上ノ理由ヲ有ス抑モ滿洲鐵道ハ其ノ目的專ラ商業上ニ止リタル限り自然且正當ノ交通機關タリシナリ露國ハ沿黑龍江州及沿海州ニ於テ重要ナル利益ヲ有スルヲ以テ此ノ地ニ對シテ鐵道ノ連絡ヲ附シ以テ同地方ノ富源ヲ利用セントスルハ固ヨリ當然ノコトニシテ若シ此ノ鐵道カ該幹線ノミニ止メラレタリシナラニハ吾人カ五六年來實驗シタルカ如キ多大ノ困難ハアラサリシヤモ知ルヘカラス然レトモ遼東半島租借ノ結果南滿洲支線ノ敷設セラレタルコトハ全然形勢ヲ一變セシメ此ノ南滿洲支線ハ日本カ認メテ以テ自國ノ生存ニ必要缺クヘカラスト爲ス所ノ利益ニ對スル

0239

侵迫タルコトヲ證スルニ至レリ故ニ日本ハ幹線ニ對シテハ其ノ目的カ純然商業的ナル限り何等ノ困難ヲ惹起スコト恐ク之レナカルヘシト雖此ノ支線ニ就テハ決シテ介意ナキ能ハス殊ニ該支線タル日本カ往年露國及其ノ他ノ強國ノ干涉ニヨリ清國ニ還附スルニ至リタル地域ニ於テ海ニ出ツルノ終點ヲ有セルヲ以テ一層然リト爲ス是レ他ノ問題ハ全ク別トシテ日本カ全支線ヲ要求スルノ已ムヲ得サル最高ノ理由ナリトス

「ウ井ッテ氏 本員等ハ以上根本的ニ意見ヲ異ニセルコトニハ論及セサルヘシ

小村男 ソハ本員ノ議論ノ第一點ノコトナラン本員ノ議論ニハ二點ヲ含メリ

「ウ井ッテ氏 本員ハ遼東租借ト鐵道敷設ト互ニ關聯セリトノ貴説ニ服スルコト能ハス

此ノ兩者ハ政治上經濟上互ニ相影響シ日本ニ對シテ或勢力ヲ及ホシタルハ事實ノ示シタルカ如シ然レトモ此ノ内ノ一ヲ讓與シタリトテ其ノ當然ノ結果トシテ他モ亦伴フテ讓與セラルヘシトハ承服スコト能ハサル所ナリ旅順及遼東半島ノ租借並鐵道ノ敷設カ政治上ノ意味ヲ有スルコトハ本員モ亦之ヲ認ム然レトモ租借地ニシテ日本ニ讓與セラレタル以上本鐵道ハ最早露國ニ取り政治上ノ意義ヲ有スルコトナキニ至レリ何トナレハ露國ハ只此ノ支線ノ小部分ヲ保有スルニ過キサレハナリ

小村男 貴全權委員ノ談ハ現在ノ事實ニ關スルモノニシテ鐵道ノ來歴ヲ不問ニ付セルモノナリ日本政府ハ該鐵道ノ眞性質ヲ以テ日本ヲ侵迫スルモノト認ム此ノ理由ニヨリ支線全體ノ讓與ヲ要求セサルヘカラス

「ウヰッテ氏（語ヲ挾ミテ）該讓與ハ何人ニ向テ之ヲ爲スノ意ナルヤ日本ナルカ將タ清國ナルカ

小村男 其ノ問題ニ就テハ之ヨリ意見ヲ述ヘントスル所ナリ

「ウヰッテ氏 本員ハ云ハントス此ノ兩者ハ、、、、、

小村男 今其ノ事ニ就キ談ヲ及ホサントス扱第二ノ論點ハ東清鐵道ノ性質是ナリ

「ウヰッテ氏 本員ハ今此ノ問題ヲ決セント欲ス本員ハ海岸ニ終點ヲ有セサル線路カ政事上ノ意義ヲ有セリトハ認ムルコト能ハス海上ニ連絡ヲ有セサルモノタル以上ハ其ノ意義ハ單ニ商業的ナリ

小村男 ソハ現ニ協議中ナル條約ノ成立シタル後ノ結果ナリ本員ハ今鐵道本來ノ意義ヲ論シツ、アルナリ

「ウヰッテ氏 鐵道本來ノ意義ハ今更論スルコトヲ欲セスソハ只歴史的ノコトニシテ若シ之ニ就キ論セラル、ニ於テハ如何様ニモ答ヘ得ヘシ然レトモ今ハ目前ノ處分ノコトナレハ歴史ノコトハ論スルヲ要セス東清鐵道ハ私立會社ノ所有スル鐵道ニシテ政府ハ之ニ付監督ヲ行ヒ又國家ノ爲メ所要アル時ハ之ニ命令ヲ下シテ政府ノ用務ヲ達セシムルモ之カ爲メ鐵道ノ私立タルコトヲ妨クルモノニ非ス是レ露國ノ他ノ鐵道ニ就テモ同シク行フ所ニシテ又外國ニ於テモ其ノ例多シ例ヘハ佛國ノ如キモ其ノ鐵道ハ縱令私有タリトモ政府ノ監督ニ付シ且戰時若クハ國家ノ必要ニ會スルトキハ命令ヲ以テ之ヲ使用處分ス只政府ハ之ニ對シテ報償ヲ爲スアルノミ

小村男 否、東清鐵道ノ性質ハ特殊ナリ

「ウヰッテ」氏 ソハ支線ノコトカ

小村男 否、該鐵道全體ニ關シテナリ貴全權委員ハ東清鐵道ハ私立會社ニ屬スト云ヒ且

恰モ佛國ニ於ケル私立鐵道ノ如シト云ハレタルカ決シテ然ラス

「ウヰッテ」氏 佛國ノ鐵道ノ事ハ例トシテ説明ノ爲メニ擧ケタルナリ

小村男 本員ハ決シテ斯ノ如キモノニアラサルコトヲ證セントス先ツ鐵道敷設ノ由來

及目的ニ就キテ云ハム東清鐵道ハ千八百九十六年五月莫斯科ニ於テ調印セラレタル

露清祕密條約ヲ根源トセルニアラスヤ

「ウヰッテ」氏 然リ、其ノ通りナリ

小村男 此ノ鐵道ノ目的タルヤ右條約ニ於テ露國カ清國ヲ助ケテ日本ノ侵撃ヲ防クコ

トノ目的ノ爲メ露國ノ軍隊ヲ輸送スルコトニ在リト認メアリ故ニ此ノ鐵道ハ右ノ祕

密條約ニ由リ軍事鐵道タルコトヲ意味セルコト明ナリ是レ鐵道敷設當初ノ目的ニシ

テ其ノ後此ノ鐵道ニ關シテ露清兩國間ニ締結セラレタル諸種ノ協約ハ皆此ノ目的ニ

適スヘク作ラレタリ其ノ結果東清鐵道ハ外見私立會社ノ鐵道ノ如キ觀アルモ其ノ實

ハ露國政府ノ事業ニシテ露國政府タルモノハ其ノ欲スルカ儘ニ此ノ鐵道ヲ使用處分

スルコトヲ得ルノ地位ニ在リ卽チ此ノ鐵道タル全ク露國政府ノ支配ノ下ニ在ルヲ以

テ該政府ノ欲スル所ハ直ニ行ハルノ、位置ニアリ

「ウヰッテ」氏 貴全權委員ノ云ハル、所ハ眞相ヲ穿チタルモノニアラス此ノ如キ議論ヲ

爲サル、ハ記録ノ不足ナルニ基ケリ今其ノ真相ヲ明ナラシメムカ爲メ本員ハ爰ニ腹藏ナク語ルヘシ元來東清鐵道ハ決シテ軍事的ノ目的ヲ以テ敷設セラレタルモノニアラス其ノ目的タル一ニ露國ノ絶東領地ニ連絡ヲ附スルニ在リ此ノ連絡ノ爲メニハ最初ハ黑龍江岸ヲ迂回シテ鐵道ヲ敷設セムコトヲ欲シ其ノ調査ヲ盡シタリ該調査ハ總テ本員自ラ其ノ衝ニ當リテ行ヒタル所ナルカ其ノ結果黑龍江岸ヲ迂回スルコトハ多大ノ困難アルコトヲ確メタリ第一ニ地勢甚タ不規則ニシテ工事非常ニ困難ナルカ上ニ距離甚シク延長シ之ヲ直線ニ貫通セシムルニ比スレハ五六百露里モ迂回セサルヘカラサルコトヲ確メタリ故ニ工事容易ニシテ短距離ナル滿洲通過ノ線ヲ取リテ此ノ鐵道ヲ敷設スルコトヲ決シタルモノニシテ其ノ本來ノ目的ハ全ク商業的ナリシナリ今貴全權委員ノ語ラレタル莫斯科祕密條約ノコトハ今帝ノ戴冠式ニ李鴻章大使トシテ莫斯科ニ來リ其ノ時露國政府ハ彼ト談判セシメ該談判ハ總テ本員自ラ其ノ局ニ當リタルナリ而シテ當時ニ於テモ本員ハ露國カ東清鐵道ヲ敷設スル目的タル全然商業上ニ在ルコトヲ説明セリ故ニ清國政府モ之ヲ軍事的トナササルノ趣意ヲ明ニセムコトヲ欲シ之カ爲該鐵道ノ途中ニ於テ輸送軍隊ヲ停留スルコトヲ得サル旨ノ規定ヲ設ケタル程ナリ事情斯ノ如クナルヲ以テ其ノ際ニ於テ日露兩國間ノ戰爭ト云フカ如キ思想ハ毫厘モ之レ無カリシナリ該談判ノ際李鴻章ハ此ノ鐵道ハ清國カ日本ヨリ侵襲ヲ受ケタルトキハ如何ナル意義ヲ有スヘキヤヲ論シ若シ日本カ清國ヲ攻撃シ來ルトキ露國ニ於テ清國ヲ助クルコトヲ承諾スルニ於テハ該鐵道敷設權ヲ許可スヘキ旨ヲ

述へタリ之ニ對シ露國ハ又之ヲ相互條件トシテ若シ日本カ露國ト戰ヲ開キ烏蘇里地方ニ侵入シ來ラハ清國亦起テ露國ヲ助クヘキコトヲ約スヘキ旨ヲ提議シ之ヲ好餌トシテ條約ヲ成立セシメタルナリ故ニ此ノ相互援助ノ條件ハ毫モ日本ニ對シテ侵略的性質ヲ有セス又事實ニ於テ露國ハ此ノ相助條件カ實際上何等効力ヲ有セサルモノナルコトヲ斷言ス此ノ條件ニ露國ノ同意シタルハ清國カ頻ニ之ヲ迫リタルト又實際上重大ナル意義ヲ有セサルコトヲ認メタルヲ以テ爲シタル迄ニシテ其ノ真正ノ目的ハ全ク經濟的ナリシナリ其ノ實證ハ千九百年ノ北清事變ニ於テ露國ハ日本ト協同シテ清國ヲ伐チ又現ニ今回ノ日本トノ戰爭ニ於テ露國ハ決シテ清國ニ對シテ露國ノ味方トナリ來ランコトヲ要求シタルコトナシ又爰ニ全然一個人トシテ貴全權委員カ正當ニ事物ヲ判斷セラル、コトノ爲メ一言スヘキコトアリ此ノ事ハ會議錄中ニ掲クヘカラス小村男栗野氏其ノ他露都駐節ノ經歷アル諸氏ハ皆同シク本員カ個人トシテ侵略的主義ニ反對シ終始平和ヲ以テ主義トセルモノナルコトヲ熟知セラル、ナラン此ノ平和主義ノ本員カ該鐵道事業ノ衝ニ當リ本員ノ勢力ノ及フ限り此ノ主義ヲ該鐵道ノ事ニ及ホサント爲シタルモノナルカ故ニ該鐵道カ全然侵略的ノモノニアラサルコトハ之ニテモ推知シ得ラル、ナラン李鴻章談判ノコトヨリシテ此ノ鐵道ヲ侵略的ノモノナリト看做スハ本員ノ同意スルコト能ハサル所ナリ此ノ鐵道ハ全ク平和的ナリ然レトモ同一ノ物件ハ數百異ナリタル用ヲ爲スコトヲ得ヘシ例ハ純然紙片ヲ切ル爲メニ製セラレタル小刀モ時トシテハ人ヲ傷クルノ用ヲ爲スコトアルヘシ此ノ鐵道モ

亦元來ハ平和的ノモノナリシモ今回ノ戰爭ニハ之カ一種ノ武器ナラサリシト云フコトヲ得ス故ニ本員ハ今該鐵道モ一切當初ノ目的ノ通り平和的ノモノナラサルヘカサルコトニ同意シ從テ遼東半島ノ租借ヲ日本ニ讓ルコト、爲シ且此ノ鐵道カ商業ノ目的以外ニ用ヒラル、コトナギヲ約スヘシ又本員ハ此ノ鐵道カ露國政府ノ大ナル勢力ノ下ニ立テルモノナルコトヲモ否認セス然レトモ之カ爲メ東清鐵道會社ハ特別ノ地位ニ在リト云フコトヲ得ス即チ戰時ニ於テハ鐵道ニ關シテ種々ノ制限及命令ヲ下スコトヲ得ヘシト雖ソハ露國ニ於テ何レノ會社ニ對シテモ爲スコトニシテ只之ニ對シテ政府ハ賠償ヲ爲スコトアルノミ現ニ露土戰爭ノ時モ重要ナル私立會社ノ鐵道ハ皆軍事ノ爲メ之ヲ政府ノ用ニ供セシメタリ之ニ對シテ政府ハ損害ヲ賠償セリ本員ハ實際上貴全權委員ノ希望ト疑惑トヲ充分了解ス而シテ此ノ疑惑ヲ解去ラムコトヲ欲ス本員ハ本鐵道カ旅順迄連絡シタル以上軍事上ノ効力ヲ有シ從テ日本ニ於テ之ヲ一ノ侵略的機關ナリト思考セラル、コトヲモ亦能ク了解ス故ニ遼東半島ノ問題ヲ處分シタル以上ハ該鐵道ニ就キ侵略的若クハ危險的ナリトノ疑念ハ全然解去ラレタルモノト考フ而シテ遼東半島ノ租借ヲ讓渡スコト、爲シタル以上其ノ地域内ニ於ケル鐵道モ亦直接日本ヘ讓渡スコトハ論理上ノ結果ナルヲ以テ本員等ハ之ヲ爲スコトヲ得此事ハ本員等自ラ責任ヲ以テ之ヲ爲スヘシ然レトモ其ノ他ノ部分ニ付テハ爾カスルコト能ハス

小村男 本員カ該鐵道ノ淵源タル莫斯科條約ニ就キ議論ヲ爲シタルハ腹藏ナク我方ノ

所見ヲ説明セムコトヲ欲シタルニ由ル

「ウヰッテ」氏 本員ハ貴全權委員カ腹藏ナク其ノ所見ヲ述ヘラレタルコトヲ謝ス然レトモ本員モ亦腹藏ナク當時ノ事情ヲ語リタルカ如ク貴全權委員ハ所謂該鐵道ノ侵略的性質云々ニ付正鵠ヲ失シタル感想ヲ懷キ居ラル、モノト認ム該條約締結當時ノ事情ニ表裏兩面アリテ所謂防禦同盟ノ規定ヲ設ケタルハ全ク清國ノ同意ヲ得ルタメ表面條文ニ載セタル迄ニシテ眞ノ目的ハ經濟的必要ノ爲メ鐵道敷設權ヲ得ントスルニ在リ其ノ最良ノ證左ハ所謂同盟的條約ノ曾テ實行セラレタルコトナキニヨリ明ナラスヤ

小村男 本員ハ貴全權委員ノ腹藏ナキ説明ニ對シテ眞誠ニ謝意ヲ表ス往年露國ニ駐節スルヤ閣下ノ知己タル榮ヲ得當時該鐵道事業ノ經濟的發達ニ關シ貴見ヲ叩キタルコトアリ而シテ當時ノ説明モ滿洲鐵道ノ目的ハ全然經濟的ナリト云フニ在リシハ本員ノ記憶スル所ナリ

「ウヰッテ」氏 若シ該鐵道カ單ニ幹線ノミニ限ラレタリシナラムニハ日本ニ對シテハ友好的關係ト相互ノ利益トヲ生シ得タリシナラン

小村男 滿洲鐵道ノ本來ノ目的全ク商業的ニシテ且沿黑龍江州地方ノ富源開發ヲ主トシ日本ニ對シテ何等侵略的性質ヲ有スル目的ニアラザリシコトハ今貴全權委員ノ與ヘラレタル説明及貴全權委員カ露都ニ於テ本員ニ語ラレタリシ事ニヨリ甚々明瞭トナレリ本員ハ莫斯科ニ於テ談判セラレタル祕密條約ニ關スル説明ニ對シ重テ貴全權

0246

委員ニ謝シ且所謂軍隊輸送ニ關スル祕密約束ニ付貴全權委員ノ爲サレタル説明ヲ承  
諾ス此等ハ皆過去ノ事ニシテ而シテ此等過去ノ事ニ關シテハ本員等ハ文書ニ依リテ  
判斷スルノ外コレナカリシナリ故ニ今莫斯科協商及該談判ノ直接ノ衝ニ當ラレタル  
紳士タル貴全權委員ヨリ此事ニ關シ詳細ナル説明ヲ聞クコトヲ得タルハ本員ノ甚々  
満足スル所ナリ本員ハ是ヨリ實際的ノ問題ニ移ラム之ニ就キテハ二個ノ問題ヲ決セ  
サルヘカラス即チ

一、如何ニシテ露國政府ハ該鐵道ヲ日本ニ讓渡スヘキカ

二、日本ニ讓渡セラレヘキ鐵道ノ範圍如何

是ナリ而シテ第一點ニ就テハ鐵道ノ讓渡ハ遼東租借權ノ讓渡ノ條件ト同一條件ノ下  
ニ在ラサルヘガラサルコトハ論理上當然ノ結果ナリ故ニ清國ノ同意ヲ經テ露國ヨリ  
日本ヘ讓渡スコトニスヘシ然レトモ最早午後一時トナリタルヲ以テ新聞通知案ヲ定  
メ午餐ヲ喫セム

ウヰッテ氏 諾

(是ニ於テ双方全權委員ハ八月十六日午前ノ會議ニ於テ第七條ヲ討議シ午後一時ニ  
至リ休憩セリトノ新聞通知案ヲ定メタル後一同食堂ニ赴キ午餐ヲ共ニシ午後三時  
十五分迄休憩セリ)

(午後三時十五分再開)

0247

小村男 午前會議ニ引續キ滿洲鐵道引渡ノ方法ヲ議セム

「ウヰッテ」氏 諾滿洲鐵道讓渡方法ニ就テハ其ノ遼東租借地域内ニ在ルモノト其ノ同地域外ニ在ルモノトヲ別タサルヘカラス其ノ該地域内ニ在ルモノニ付テハ露國政府ヨリ之ヲ直接ニ日本國ニ讓渡スルコト租借權讓渡ノ論理的結果ナリト雖其ノ該地域外ニ在ルモノニ關シテハ然ラス

小村男 本員ハ貴案ニ同意スルコト能ハス即チ滿洲鐵道ハ總テ日本國ニ直接ニ讓渡スルノ方法ヲ採用スルコトヲ要ス

「ウヰッテ」氏 本員ハ一旦該鐵道ヲ清國ヘ交付シタル以上ハ該鐵道カ如何ニ處分セラレ、ヤニ付何等ノ方法ヲ以テモ之ニ干渉セサルコトヲ約スヘシ是ニテ實際上何等差支ナカラム結局ハ日本ノモノト爲ルヘキナリ

小村男 然ラハ即チ問題ハ全ク形式上ニ止マリ實際上双方ノ意見ハ一致セルナリ故ニ我方ノ提議通り清國ノ同意ヲ以テ日本ヘ讓渡スコト、爲サム

「ウヰッテ」氏 實質ニ於テハ本員等ハ全ク貴方ト意見相一致セリ然レトモ表面上清國ヘ還附スルコト、爲サ、レハ清國ニ對シテ其ノ體面ヲ傷クルコト、ナラム

小村男 鐵道ノ讓渡ハ清國ノ同意ヲ以テスルコトト爲シタル以上ハ清國ノ體面ヲ傷クルコトハ之レナキニアラスヤ且該讓渡ハ遼東租借權讓渡ト同一ノ性質ナルヲ以テ一方ニ就キテ日本ヘ直接讓渡ヲ承諾セラレタル以上他方ニ就キテ之ヲ拒マラル、理由ナカラム

「ウヰッテ」氏 否、租借條約ニハ之ヲ再ヒ他ニ轉讓スル事ニ就キ何等規定ナキヲ以テ可ナ  
リト雖鐵道敷設特許條約ニハ該鐵道ハ清國ニ讓渡スヘキモノナルコトヲ明言シアル  
ヲ以テ双方ノ場合ハ同一ナラス

小村男 貴全權委員ハ過刻租借地域内ニ於ケル鐵道ヲ直接ニ讓渡スコトニ同意セラレ  
ソハ租借地讓渡ニ伴フ論理上ノ結果ナリト述ヘラレタリ且又屢鐵道ト租借トハ全ク  
別異ノモノニシテ其ノ間互ニ何等關係ナキコトヲモ論セラレタリ果シテ然ラハ鐵道  
讓渡ニ就キ租借地域内ノ部分ト其ノ地ノ部分トニツキ異ナル方法ニ依ラサルヘカラ  
サル理由ヲ發見スルコト能ハス

「ウヰッテ」氏 租借地域内ノ鐵道ヲ直接ニ讓渡スコトハ論理的結果ナリト云ヘルハ左程  
深キ意味ニハアラス土地カ移ル以上ハ其ノ地上ノ物之ニ伴フテ移行クハ當然ナリト  
ノ考ヨリ來リタルノミナリ

小村男 要スルニ貴説ノ如クシハ鐵道ノ移轉ハ租借地ノ移轉ト同様ニ取扱フコトヲ得  
ルコト、ナル

「ウヰッテ」氏 否、鐵道ノ方ハ清國ニ對スル形式上同様ナルコトヲ得ス

小村男 ソハ先刻モ述ヘタル如ク清國ノ同意ヲ要ストナシ置ク以上若シ清國同意セハ  
何等議論ナキコトナラム

「ウヰッテ」氏 然ラハ條約ノ書方ハ我方ノ提議ノ如クニ爲シ置キ而シテ會議録中ニ「若シ  
鐵道ヲ直ニ日本へ讓渡スコトニ付清國ニ於テ故障ナキトキハ露國ハ之ニ對シ何等故

障ヲ有セサルヘシト認メ置カハ可ナラン

小村男 本員ハ斯ノ如ク爲スノ必要ヲ認メス直チニ條約ノ上ニ清國ノ同意ヲ以テ日本  
ヘ讓渡スコト、スヘシ

「ウ井ッテ」氏 ソハ只形式上ノ問題ニシテ主義ハ双方同一ナレハ我方ノ提議ノ如ク取計  
ヒ趣意ハ達セラレム

小村男 若シ爾カセムニハ日本ハ何事ヲモナスコト能ハス假令會議錄中ニ斯ノ如キコ  
トヲ記入スルモ實質上前來貴方ノ主張ト同一ニ歸スヘシ

「ウ井ッテ」氏 否、清國ニ於テ直接ノ讓渡ヲ選ムニ於テハ露國ハ之ニ對シ異議ナキコトヲ  
明言スル點ニ於テ異レリ

小村男 若シ條約ニ於テ清國ノ承諾ヲ以テ直接日本ヘ讓渡スコトニナラムニハ可ナル  
モ貴案ノ如キ取極ニテハ日本ハ自ラ何事ヲモ爲スコト能ハサルヘシ

「ウ井ッテ」氏 孰レノ場合ニ於テモ日本ハ金錢若クハ鐵道ヲ受領スルコトヲ得ルナリ是  
レ我方ノ趣意ナリ

小村男 日本ハ代價ヲ欲スルニアラス鐵道其ノ物ヲ受取ルコトヲ要スルナリ  
「ウ井ッテ」氏 ソハ我方ニ於テ故障ナキコトナリ故ニ其ノ主意ヲ會議錄ニ掲ケ置カムト

云フナリ

小村男 否、會議錄ニテハ不可ナリ條約ニ認メ置クヲ要ス

「ウ井ッテ」氏 然ラハ不得已貴方ノ意見ニ同意スヘシ然レトモ若シ爾カスルニ於テハ我

0250

方ノ趣意ヲ會議錄ニ記入シ置キタシ

小村男 ソハ不可ナリ且不必要ナリ

扱斯克定メタル後遼東租借權讓渡ノ場合ニ於ケルカ如ク本件ニ關シテモ清國政府ノ同意ハ日露兩國ニ於テ之ヲ要求シテ得ルコト、定メム

「ウヰッテ氏 否其ノ點迄ハ進ムヲ得ス既ニ清國政府ノ同意ヲ以テ直接日本ニ讓渡スコトヲ承諾シタルスラ往過キタリト思考スルヲ以テ此ノ上露國ヨリ進ムテ清國ノ同意ヲ求ムルヲ約スルコトハ本員ノ到底承諾スルコト能ハサル所ナリ若シ我方ノ提議ノ如ク本條ヲ定メタラムニハ露國ヨリ清國政府ニ同意ヲ求ムルコトヲ會議錄中ニ記入スルコトヲ承諾スヘキモ今ヤ貴方ノ提議ヲ容レテ直接讓渡トナスコトヲ諾シタル上ハ此ノ上清國ノ同意ヲモ我ヨリ協力シテ求ムルコトハ爲シ能ハサルナリ

小村男 貴全權委員ノ論旨ハ頗ル解シ難シ租借地ノ讓渡ト鐵道ノ讓渡トハ同性質ナルヲ以テ之ニ對シ清國ノ同意ヲ双方ヨリ求ムルコトニ就テモ亦同様ナラサルヘカラス然ルニ租借權讓渡ニ關シテハ同意ヲ求ムルコトヲ約シツ、鐵道讓渡ニ付之ヲ拒マルルハ解スヘカラス

「ウヰッテ氏 否我方ノ考ニテハ鐵道ノ讓渡ニ就テハ相當ノ體面及第三國ニ對スル斟酌ヲ考量セサルヘカラサルコトヲ云フナリ日本ニ於テ清國ト協商ノ上之ヲ受領セララルコトハ露國ニ於テ毫モ故障ナキ所ナリ

小村男 露國ノ眞意如何ハ毫モ疑フ所ニアラスト雖斯ノ如ク租借權讓渡ニ就テハ共ニ

0251

清國ノ同意ヲ求ムルコトヲ諾シツ、鐵道讓渡ニ付テ之ヲ拒マル、ニ於テハ其ノ理由ヲ解スルニ苦ムヲ以テ必ス前者ト同様ノ規定ヲ諾セラレムコトヲ望マサルヲ得ス

「ウヰッテ氏 決シテ他意アルニ非ス然レトモ露國ノ清國ニ對スル關係上形式ニ於テ誤解ヲ來スノ恐アルコトハ之ヲ避クルノ必要アルナリ

小村男 然レトモ條約ハ公布セラレヘキモノナレハ其ノ公布ノ曉斯ノ如ク全ク同性質ノ讓渡事件ニ關シ一ハ双方ヨリ同意ヲ求ムルコトヲ約シ他ハ之レナキトキハ忽チ疑惑ヲ招キ其ノ理由ヲ問フモノアラハ如何ニ説明スヘキヤ畢竟兩者取扱ヲ異ニスヘキ理由ナキヲ以テ是非共之カ插入ヲ希望セサルヲ得ス

「ウヰッテ氏 然ラハ不得已ニ付爾カスヘシ

次ニ貴案中何等ノ債務及負擔ヲ伴ハシメスシテトアリ其ノ意義如何

小村男 是レ畢竟金錢ノ支拂ヲ要セストノ意義ナレトモ強ヒテ必要ノモノニ非サルカ故ニ之ヲ削除スルモ可ナリ

「ウヰッテ氏 就テハ金錢ヲ要セスシテト明記シ置カム

小村男 夫レヨリハ補償ヲ受クルコトナクトスル方可ナラン

「ウヰッテ氏 諾又清國政府ノ承諾ニ關シテハ清國政府ノ承諾ヲ條件トシテトナサム

小村男 (「ローゼン男ニ對シ)英語ノ「Subject to」ハ佛語ニテ何ト譯スルヤ

「ローゼン男 「Sujet au」ナリ

小村男 然ラハ差當リ英文ヲ佛語ニ直譯シ「Sujet au……」ト爲シ置キ後日之ヲ改ムルコト

ト、セム

「ウヰッテ氏 條約文ニ欄外註ヲ施シ右「Sujet au.....」トハ「.....」條件トシテ」ノ意ナル旨  
ヲ記シ置カム

小村男 否之ヲ後日ニ讓ルコト、スルヲ可トス

「ウヰッテ氏 諾、尙本條末項ヲ定メサルヘカラス

小村男 同項ハ鐵道讓渡ノ場合ト同シク之ヲ相互的ト爲サム

「ウヰッテ氏 諾

小村男 是ヨリ第二點即チ何レノ場所迄讓渡サルヘキヤ否ヤノ問題ニ移ラム此ノ事ハ  
過刻モ述ヘタルカ如ク既ニ租借權ノ讓與ニ伴フテ本鐵道ヲ讓受クルコト、ナリタル  
以上ハ當然哈爾賓迄ノ讓受ヲ請求セサルヘカラス又讓與ノ區分點モ天然ノ形勢上哈  
爾賓ト爲スコトハ最も相當ナリ貴全權委員ノ言ハル、カ如ク現ニ日本軍隊ノ占領區  
域内ニ在ル部分ニ限ルト云フコトハ其ノ理由ヲ解スルコト能ハス若シ如斯ナレハ戰  
局益進ムテ占領區域愈増加セハ鐵道讓渡ノ部分モ益増加スルコト、ナラム

「ウヰッテ氏 本員ハ哈爾賓迄ノ線路ヲ割讓スルコトニハ斷然同意スル能ハス抑モ滿洲  
鐵道ハ本員カ實際自ラ視察シテ詳知セル所ニシテ哈爾賓ハ連絡ニ便ナル都市ニ非ス  
元來同地ニハ二三ノ商店アリタル外毫モ市街ヲシキ設備ナク隨テ鐵道敷設工事ニ伴  
ヒ必要ナル倉庫、物置及工夫役員等ノ宿泊給養ニ必要ナル宿舍等ノ設モナク急ニ市街  
ヲ建造セサルヘカラサリシ程ナリ又經濟上ヨリ言ヘハ南滿洲支線ノ通過スル地方ハ

0253

南部ハ經營上ノ利益多ク北方ニ進ムニ隨ヒ人口稀薄ニ富力及商工業上ノ利益モ減少スルヲ以テ南方讓受ノ方遙ニ利益多シ

小村男 貴全權委員ハ經濟上ノ事ヲ論セラル、モ經濟上ノ議論ノ外ニ我方ハ哈爾賓迄請求セサルヘカラサル重大ナル政治上ノ理由ヲ有ス即チ南滿洲支線ノ如キハ直接ニ日本ノ利益ヲ侵迫スル性質ヲ有スルモノニシテ之カ爲メ日本國民ノ感情ヲ害シタルコト幾何ナルヤヲ知ルヘカラス此ノ如ク侵略ノ武器トナリタル鐵道ノ一部ヲ今後尙露國ニ保有セシムルコトハ決シテ同意スルコト能ハサルナリ故ニ該支線ノ如ク單ニ旅順ト連絡ヲ附スル爲メ敷設セラレタルモノハ旅順ノ讓渡ト共ニ其ノ存立ノ理由ヲ失ヒタルモノニシテ其ノ全部ヲ日本ヘ讓渡サル、ハ當然ノ事ニ非スヤ

「ウヰッテ」氏 本員ハ既ニ日本軍隊ノ占領區域内ニ在ル部分ハ果シテ何處迄カヲ詳知セスト雖假ニ公主嶺トセン此ノ公主嶺迄讓渡スコトハ異議ナキモ其レ以上進テ讓渡ノ區域ヲ北方ニ延長スルコトハ同意スルコト難シ蓋シ露國ニ於テモ貴國軍隊ノ占領區域内ニ屬スル鐵道ヲ讓與スルコトハ不得已トナサンモ其レ以上ヲ讓ルコトハ國民ノ感情上甚タ困難ナリ又國民ノ感情ハ別問題トシテ經濟上哈爾賓ノ連絡點トシテ便利ナラサルコトヲ言ハンニ該地ヲ南滿洲支線ノ分岐點ニ選ミタルハ全ク偶然ノコトニシテ技術上ヨリ滿洲鐵道カ松花江ヲ横キルニハ此點ヨリスルヲ可トセントノ點ヨリ定メタルノミニシテ經濟上ノ點ヨリハ何等考慮スル所ナカリシ又此ノ鐵道ヲ分割スルニ必ス該分岐點ヨリセサルヘカラサルノ理由モナシ若シ兩部分ノ鐵道所有者タル

0254

會社ヲ異ニスル場合ニハ如何ナル點ヲ以テ其ノ接續點ト爲サムカヲ決スルニハ哈爾賓以外ニ於テ求メサルヘカラサルナリ貴全權委員ハ南滿洲支線ノ性質カ日本ヲ侵迫セルヲ以テ其ノ全部ヲ要求スルノ理由アリト述ヘラレタリ然レトモ一旦旅順ヲ日本ニ讓ルコト、ナリタル以上該鐵道カ最早侵略的ノ性質ヲ有セサルコトハ無論ノコトニ屬スルヲ以テ其ノ區分點ヲ哈爾賓ニ定ムルト更ニ南方ニ定ムルトニツキ何等著シキ相違ノ存スルナシ本員ハ和約締結ノ上ハ兩者相信シテ之ヲ實行センコトヲ切望ス若シ兩者相信セハ今後南滿洲鐵道ノ一部分カ侵略的ノ意味ナキコトハ明ナルナラン貴方ハ此ノ點ニ關シ疑念ヲ有シ居ラル、カ如シ其ノ疑念ハ或ハ理由アルコトナラムモ互ニ相信シナハ此ノ點ニ於テ何等ノ齟齬ヲ生スルコトナケン尙爰ニ隔意ナク聞カンコトヲ欲スルコトアリコハ此處ニテ質問スルモ敢テ軍機ノ秘密ヲ求ムルモノニアラサルヘシト想像ス現ニ日本ノ前衛ノ在ル處ハ何レナルヤトテ滿韓地圖ヲ出ス

小村男 軍隊ノ後部コソ機密ニ屬スルコトナレトモ軍隊前衛ノ所在地ハ双方ニ知レ居ルコトナレハ決シテ機密ニアラス凡ソ此處ナリトテ法庫門附近ノ線ヲ指示ス(借軍隊ノ對陣地點ハ此處ナレトモ本員ハ兩國ノ鐵道區分點ハ軍隊ノ所在地ニ據ラス政略上將來兩國ノ關係如何ヲ考慮シ之ヲ決定セサルヘカラサルモノト思考ス  
「ウヰッテ」氏 然ラハ現ニ軍隊ノ占領セル地點ヲ以テ區分點ト爲スコトハ一步ヲ讓リテ之ヲ撤回シ該占領地方ヨリ北方ニ於テ第一着ニ位スル商業上最モ重要ナル地點ヲ選

ミテ區分點ト爲スコトニ同意セン即チ長春ハ第一ノ重要點ナレハ之ヲ以テ區分點ト  
ナサム

小村男 本員ハ此ノ區分上ノ問題ニ關シテハ各方面ヨリ研究ヲ加ヘタル上哈爾賓ヲ以  
テ最モ適當ナリト認メタルカ貴方ニ於テ哈爾賓ハ如何ニシテモ同意スルコト能ハス  
トナラハ之ヲ哈爾賓以外ニ求ムルコト、スルモ其ノ決定方法ハ商工業上ノ重要ナル  
地點ヨリモ山川等自然ノ形勢ニ據ルヲ可ナリト思考ス

「ウヰッテ」氏 若シ地域ヲ區劃スル地理上ノ事ナランニハ貴説ノ如ク山川ヲ以テ境界ト  
ナスコト可ナランモ鐵道事業ノ上ヨリ言ヘハ天然ノ地形如何ヨリモ重要市街ノ方ヲ  
可ナリト認ム若シ然ラスシテ山川ノ形勢ヲ基礎トシテ地點ヲ選ムトキハ其ノ地點ニ  
ツキ露國カ哈爾賓ニ於テ爲シタルト同シク種々ノ煩累ヲ以テ連絡停車場ノ設備ヲ爲  
サ、ルヘカラサルコト、ナルナラン凡ソ所有主ノ異ナル鐵道ノ連絡ヲ重要ノ市街ニ  
取ルコトハ歐洲ニ於ケル例皆然リ

小村男 鐵道事業ハ互ニ一致ヲ保タサルヘカラス其ノ連絡點カ重要ノ市街ニ在ルト否  
トハ第二ニ考慮スヘキ問題ニシテ自然ノ形勢如何ハ第一ニ考量スヘキコトナリ  
「ウヰッテ」氏 山川ノ形勢如何ハ軍事上ニ於テ重要ノコトナリ然レトモ商業上ニ於テハ  
寧ロ市街ノ方ヲ重要ナリトス

小村男 双方ノ觀察點ニ相違アルコトヲ認ム本員ハ種々ノ事情ヨリ考量シ兩國鐵道ノ  
最モ自然ニ適スル區分點ハ松花江ニ在リト断定ス故ニ哈爾賓ヲ以テ區分點ト爲スコ

トニハ絶對ニ同意セラレ難シトノコトナレハ一步ヲ讓リテ哈爾濱ト長春ノ間第二松花江鐵橋ヲ以テ區分點ト爲サム

「ウヰッテ」氏 自然ニ適ストノ點ヨリ云フトキハ最も自然ニ適當スルモノハ軍事上ノ關係ナリ兩軍相對峙シテ久シク動カサルハ自然ニ其ノ地點カ天然ノ區分點ニ適スルコトヲ證明スルモノナリ故ニ貴説ノ如ク必ス自然ニ適スル場所ヲ選マサルヘカラストノコトナレハ現ニ兩軍ノ對峙セル所即チ公主嶺ヲ以テ最も適當ナリトセム

小村男 假ニ貴説ノ如ク長春ヲ以テ區分點トナストセハ同地ヨリ吉林ニ通スル支線ハ日露孰レノ所屬トナルヘキヤ

「ウヰッテ」氏 コハ現在ノ所有主ニ屬スヘキナリ

小村男 現在ノ所有主トハ露國ノコトナルカ

「ウヰッテ」氏 然リ

小村男 此ノ點ハ最も重要ナルモノナリ若シ此ノ點ニ就キテ妥協ヲ遂クルコトヲ得ハ長春ヲ選ムコトニ同意セム此ノ支線ハ必ス日本ノ所屬タラサルヘカラスト尤モ實際上此ノ支線ハ未タ敷設セラレサルナリ

「ウヰッテ」氏 果シテ然ルカ本員ハ未タ實際該支線カ現ニ敷設セラレアリヤ否ヤヲ詳ニセス元來東清鐵道ノ南滿洲支線ハ吉林ヲ經テ敷設スル筈ナリシモ工事ヲ急キ距離ノ短縮ヲ計リタルタメ今日ノ如ク直接ニ奉天ノ方ヘ走ル方向ヲ取りタルナリ故ニ貴説ノ如ク吉林支線ニシテ未タ敷設セラレサルニ於テハ此ノ線路ハ日本ノ所屬ト爲シ即

チ該線以南ノコトハ日本ニ委スルコトニ同意セム然レトモ既ニ敷設セラレ若クハ工事中ナルニ於テハ之ヲ引渡スコトハ承諾スルコト能ハス

小村男 否、未タ敷設セラレス

「ウヰッテ」氏 本員ハ此ノ點ニ付確實ナル事實ヲ知ラス速ニ問合スヘシ就テハ此ノ趣意ヲ會議録ニ認メ置カム即チ若シ吉林支線ニシテ果シテ未タ存在セスンハ我方ヨリハ該支線ニ付何事ヲモ主張セス其ノ敷設權ハ日本ニ譲リ日本ニ依リ經營セラル、モ故障ヲ挾マス該線ヨリ南方ニ於テ日本カ如何ナル事ヲ爲ストモ露國ハ決シテ何等ノ故障ヲモ有セス即チ南方ハ日本ニ委シ北方ハ我方ニ於テセン然レトモ若シ該支線ニシテ既ニ工事ニ著手セラレ又ハ半成レリト云フカ如キコトアラハ之ヲ引渡スコト能ハス

小村男 否、其ノ趣意ニテハ不可ナリ日本ノ最初ノ要求ハ哈爾賓ヨリ旅順及其ノ支線ノ讓渡ニ在リテ此ノ所謂支線中ニハ吉林線ヲモ含ミタルナリ今ヤ貴全權委員ニ於テ極力其ノ主張ヲ固持シ到底哈爾賓迄ハ承諾スルコト能ハストノコトニ付不得已我ヨリ一步ヲ譲リ區分點ヲ南方ニ定ムルコトヲ承諾シタル以上此ノ支線ノ權利ヲモ抛ツコトハ同意スルコト能ハス

「ウヰッテ」氏 本員ハ充分實際ヲ詳ニセス故ニ今ハ只長春ヲ以テ區分點ト爲スコトノミヲ決定シ置キ兩國經營ノ分境ハ吉林線ト爲シ該線ノ所有主如何ハ更ニ條約全體ヲ議スルトキニ於テ之ヲ定ムルコト、ナサム

0258

小村男 本員ハ此ノ區分點ニ付我方ヨリ一步ヲ讓リタル以上ハ支線ノコトニ付貴方ヨリモ讓歩ヲ要求セサルヘカラス

「ローゼン」男 吉林線ハ果シテ今モ存在セサルカ

小村男 本員カ東京ヲ出發スル迄即チ本年七月迄ハ確ニ存在セサリキ但シ軍事上ノ必要ノ爲メ假線路ノ敷設セラレタルカ如キコトナキヤ否ヤハ知ラス

「ウヰッテ」氏 本員ハ軍事的假線路ノコトハ敢テ顧ミサルナリ永久的ノ支線敷設セラレ居ラサルヤ否ヤヲ確メント欲スルヲ以テ速ニ本國ニ問合スヘシ

小村男 然ラハ此ノ點ハ他日ニ讓リ貴方ニ於テ實際ノ事情ヲ確メラレタル上ニ於テ決定スルコト、セム

「ウヰッテ」氏 即チ左ノ如ク定メ置カン曰ク日本全權委員ハ吉林線ヲ南方ニ屬スルコトトスル條件ヲ留保シテ長春ヲ以テ區分點ト爲スコトニ同意セリ露國全權委員ハ若シ吉林線未タ存在セスンハ之ニ同意セム然レトモ事實如何ヲ詳ニスル迄ハ此ノ問題ハ其儘ニ爲サント云ヘリト

小村男 貴方ニ於テ該支線ノ存否ニ付確實ナルコトヲ知ラル、迄ハ長春ヲ以テ區分點ト爲スヤ否ヤハ未定ナリト爲シ置カム

「ウヰッテ」氏 諾

小村男 就テハ本條即チ第七條ノ文言ハ差當リ左ノ如ク確定シ置カム

露西亞帝國政府ハ……………旅順口間ノ鐵道及其ノ一切ノ支線並同地方ニ於テ之ニ附屬

スル一切ノ權利、特權及財産及同地方ニ於テ該鐵道ニ屬シ又ハ其ノ利益ノ爲メニ經營セラル、ノ一切ノ炭坑ヲ補償ヲ受クルコトナク且清國政府ノ承諾ヲ以テ日本帝國政府ニ移轉讓渡スヘキコトヲ約ス

兩締約國ハ前記規定ニ係ル清國政府ノ承諾ヲ得ヘキコトヲ互ニ約ス

「ウヰッテ」氏 異議ナシ次ニ第三條討議ノ際決シタル所ニ依リ露國政府ノ爲シタル宣言ト同一文言ノ宣言ヲ日本政府カ其ノ所有ニ歸スル鐵道ニ關シテ爲シ之ヲ會議録ニ留メ置クコト、セム

小村男 諾、次ニ第八條ノ討議ニ移ルヘキ順序ナルカ本條ニ就テハ貴全權委員ニハ日本ノ提案ヲ承諾セラレタルヲ領ス

「ウヰッテ」氏 然リ、但シ同様ノ義務ヲ日本カ今後滿洲ニ於テ經營スヘキ鐵道ニ關シテモ負擔スルヲ要ス

小村男 諾、唯茲ニ一言シタキコトアリ即チ滿洲橫貫鐵道ノ性質ニ關スルコト是ナリ原來該鐵道ハ全然商業上ノ使用ニノミ敷設セラレタルモノナレトモ其ノ實際上ノ運轉ノ状態ニ就テ之ヲ見ルニ該鐵道ハ軍隊輸送ノ爲メニ使用セラレタリ而シテ本條日本提案ニハ該鐵道ハ全ク商工業上ノ使用ニノミ之ヲ供スヘシトアリタルニ本條ニ對スル露國回答書中ニハ該線路ニ依リ運搬セラルヘキ露國軍隊及軍需品ハ清國領土内ニ停留スヘカラス云々トアリテ該鐵道ハ之ヲ軍隊輸送用ニ供スルモノ、如ク從テ日本提案ト相容レサルモノ、如シ即チ日本全權委員ノ希望ハ該鐵道ヲ軍隊輸送用ニ供ス

ヘカヲサルモノトスルニ在リタルカ該希望ハ充分貴全權委員ノ了解スル所トナラサ  
リシモノ、如ク思ハル

「ウヰッテ」氏 貴全權委員ノ疑念ヲ抱カル、ノ理由ハ本員之ヲ了解ス貴全權委員ハ恐ク  
ハ露國回答書ノ趣意ヲ能ク了解セラレサリシナラム軍隊輸送ノコトハ滿洲橫貫鐵道  
ノ免許狀ニ規定セラレタルモノニシテ清國領土内ニ停留セサル以上ハ本員ノ精神ニ  
背クモノニ非ス將又其ノ將來ノ事ニ關シテハ本員ハ相互的ノ條件ヲ以テ貴案ニ同意  
ス

曩ニ提出シタル我回答書中ニ該線路ニ依リ運搬セラルヘキ露國軍隊及軍需品ハ清國  
領土内ニ停留スヘカラス云々ノ一項ヲ附記シタルハ即チ貴提案ニ對スル説明ニシテ  
滿洲橫貫鐵道ノ本來ノ性質ヲ明ニシタルモノナリ

小村男 該線路ニ依リ軍隊ヲ輸送スル以上ハ假令清國領土内ニ停留セスト雖該線路ハ  
單ニ商業ノ爲メニノミ使用セラル、モノト云フヲ得サルナリ

「ウヰッテ」氏 若シ該線路ニシテ平時ニ於テ大軍隊ヲ輸送スルナラハ是レ特許條約ノ規  
定ニ合スルモノニ非サルナリ此ノ點ニ關シ小村男ニ於テ疑念アラムコトヲ慮リ回答  
書中ニ於テ説明ヲ附シ置キタルナリ而シテ本條ノ主義ニ關シテハ貴我双方全ク同意  
見ナリ

小村男 自國內ノ鐵道ニ關シテハ此ノ問題ヲ生セサレトモ滿洲橫貫鐵道ノ如キ他國ノ  
領土内ヲ通過スル鐵道ニ關シテハ其ノ使用法ノ問題ヲ生スルヲ以テ此處ニ於テ之ヲ

明白ニ規定シ置クヲ要ス

「ウヰッテ氏 然ラハ貴全權委員ニ於テハ軍隊ハ些カタリトモ該鐵道ニヨリ輸送スルコトヲ禁止セント言ハル、カ然レトモ露國ハ其ノ領土ノ一部ヨリ他ノ一部ニ向ケ軍隊ヲ移動スルノ必要アリ而シテ其ノ間數百里ヲ隔ツルカ故ニ遠ク迂回シテ露國領ニ依リ軍隊ヲ歩行セシムルカ如キハ到底實行シ得ヘキ方法ニ非ス此等ノ事情ニ鑑ミ本員ハ貴全權委員ノ尙少シク公正ナラムコトヲ希望ス露國ハ沿黑龍江州及沿海州ニ領地ヲ有スルヲ以テ常ニ若干少數ノ兵員ヲ駐屯セシメ時々滿洲以西駐屯ノ軍隊ト交代セシムルノ必要アリ然ルニ此ノ如キ場合ニ鐵道以外ノ方法ニ依リ右ノ輸送ヲ行フコト能ハサルハ明白ナルカ故ニ此ノ目的ノ爲メ少數ノ軍隊ヲ該鐵道ニ依リ輸送スルコトハ此等軍隊カ清國領土内ニ停留セサル以上ハ該鐵道ヲ商業上ノ用ニノミ供スルノ主義ト相容レサルモノト見サルヲ正當トスヘシ本員ハ右ノ見地ヨリ且貴提案ヲ日露兩國交互的ト爲スノ條件ヲ以テ貴提案ニ同意ヲ表シタルナリ貴全權委員ハ此ノ見地以上ノコトヲ協定セント欲セラル、カ

小村男 本員ハ唯我提案ノ趣意ヲ充分明瞭ナラシメムト欲シタルニ過キスシテ滿洲鐵道ニ依リ如何ナル有様ニ於テモ絶對的ニ兵員ヲ輸送セサルコトヲ要求スルモノニ非ス貴説ノ如ク該鐵道ハ露國ト浦潮斯德トヲ連結スル最捷路タルカ故ニ其ノ交代ノ必要上少數ノ兵員ヲ輸送スルコトハ畢竟已ムヲ得サルコトナラン就テハ本條ノ文言ヲ「……………鐵道ハ商業上ノ目的ニノミ使用シ之ヲ軍事上ノ目的ニ使用セサルヘシトセハ

可ナルヘシ

「ウ井ッテ氏 貴説正ニ我意ニ合セリ扱文言ニ就テハ……………鐵道ハ商業上ノ目的ニノミ使用シ決シテ之ヲ軍略的及侵略的ノ目的ニ使用スヘカラス」トセハ可ナラン

小村男 貴全權委員ノ提議タル本條件ヲ日露兩國相互的トナスコトハ之ヲ諾ス但シ本條件ハ遼東租借地ニ適用セラレサルヘキハ固ヨリ言ヲ俟タス

「ウ井ッテ氏 諾但シ貴方ノ除外ヲ承諾スルニ就テハ我方ニ於テモ同様ノ除外ヲ設ケ露國領内ノ鐵道ニハ之ヲ適用セスト規定セム即チ本條ノ末項ニ此ノ條款ハ兩締約國ノ領有ニ係ル地方ニハ關係セス」ト附加セハ可ナラム

（一坐笑フモノアリ「ウ井ッテ氏滿面朱ヲ注キテ曰ク諸君何故ニ笑フヤ本員ハ決シテ笑フ理由ナシト考フ滿洲鐵道ト云ヘトモ露領内ニモ互リ居ル部分アレハ此ノ除外ハ必要ナリト）

小村男 兩國領域内ノ鐵道使用方ニ關シテハ何等問題ヲ生スヘキノ理由ナシ唯遼東租借地ニ關シテハ將來萬一ノ誤解ヲ生スルヲ豫防セムカ爲メニ特ニ一言附加シ置クラ要スルノミ

「ローゼン男 小村男ノ意見正當ナリ

「ウ井ッテ氏 本員ハ單ニ本條ノ趣意ヲ明瞭ナラシメムト欲シタルニ過キス畢竟小村男ノ意見ノ如クニテ可ナリ

小村男 然ラハ第七條ノ文言ヲ確定セムトテ「ウ井ッテ氏」ノ命ニ依リ「ドブランソン」氏起

草ノ上小村男ニ手交シタル左記文案ヲ閱讀シタル上敷設特許條約ノ條件ニ從ヒトアルハ削除シテ可ナルヘシ何トナレハ是レ勿論ノコトニシテ別ニ言フ俟タサルモノナレハナリ又侵略ノナル一語ハ削除スルヲ可トス日本國ハ此ノ如キ文字ヲ條約中ニ存シ置クヲ承諾スル能ハサルナリ

日本國及露西亞國ハ滿洲ニ於ケル各自ノ鐵道線路ヲ敷設特許條約ノ條件ニ從ヒ全ク商工業上ノ目的ニ限り保有經營シ決シテ之ヲ軍略及侵略ノ目的ヲ以テ之ヲ保有經營セサルコトヲ約ス該制限ハ遼東半島租借權カ其ノ効力ヲ及ホス地域ニ於ケル鐵道ニ適用セサルモノト知ルヘシ(原文ハ附屬書第三號)

「ウ井ッテ」氏 悉ク貴案ニ同意ス

小村男 就テハ第七條ノ文言ハ確定ノモノト認ムヘシ

「ウ井ッテ」氏 諾

(是ニ於テ「ウ井ッテ」氏ハ新聞通知案ヲ定メサルヘカラスト云ヒ小村男ト協議ノ上左記ノ案文ヲ作りタル上午後六時三十分ヲ以テ散會セリ)

#### 新聞通知案

八月十六日午後ノ會議ニ於テ第七條第八條ヲ討議シ第七條ハ主義上協定セラレ第八條ハ一致ヲ以テ承諾セラレタリ會議ハ午後六時半ニ於テ明朝九時半迄休會セリ(原文ハ附屬書第四號)

第一號

7. The Plenipotentiaries of Japan take note of the acceptance of this Article in principle by the Imperial Russian Government. The right to construct and exploit the railway between Harbin and Port Arthur forms an important part of the lease of the Liao-tung Peninsula. It is a logical consequence that the railway in all its parts and extensions should follow the destiny of the lease under which it was built and is now worked. Besides, the natural point of division of the two lines of railway is the point of intersection of those lines. On the subject of the immediate exercise by China of the right of purchase of the line, the Plenipotentiaries of Japan wish to say that the Imperial Government of Japan will hold and work the line in question subject to the provisions of the concession as to China's right of purchase and other conditions in the same manner as the Imperial Russian Government will hold and work the trans-Manchurian line.

第二號

*(Traduction)*

7. Les Plénipotentiaires du Japon prennent acte de l'acceptation en principe de cet Article par le Gouvernement Impérial de Russie. Le droit de la construction et de l'exploitation du chemin de fer entre Harbine et Port Arthur constitue une partie importante du bail de la presqu'île de Liaö-tong. C'est une conséquence logique que le chemin de fer doit suivre, dans toutes ses parties et extensions, le sort du bail en vertu duquel il a été construit et est maintenant exploité. De plus, le point naturel de division des deux lignes de chemin de fer est le point d'intersection de ces lignes. Au sujet de l'exercice immédiat, de la part de la Chine, du droit de rachat de la ligne, les Plénipotentiaires du Japon désirent déclarer que le Gouvernement Impérial du Japon possédera et exploitera la ligne en question, en se conformant aux dispositions de la concession relatives au droit de rachat de Chine et à d'autres conditions, de la même manière que le Gouvernement Impérial de Russie possédera et exploitera la ligne trans-manchourienne.

第三號

Le Japon et la Russie s'engagent à retenir et à exploiter conformément aux dispositions de la concession leurs lignes de chemin de fer respectives en Manchourie exclusivement dans un but commercial et industriel, mais nullement dans un but

stratégique. Il va sans dire que cette restriction ne se rapporte pas aux régions sur lesquelles s'étend le bail de la presqu'île de Liao-tong.

第四號

In the afternoon sitting of August 16th, the Conference has discussed Articles VII and VIII. Article VII has been settled in principle and Article VIII accepted unanimously. The Conference adjourned at 6-30 to 9-30 to-morrow morning.